

## JNSA 2010年度活動報告会

JNSA 主席研究員  
やすだ なお

JNSAのWG活動内容を報告する2010年度の活動報告会が下記の要領で開催されました。また、東日本震災後IT分野での支援を行っているHack for Japanの活動についての講演も行われました。当日は、160名以上の方に参加いただき、盛況な報告会となりました。

【日 時】2011年6月8日(水)10:30~15:30

【会 場】アルカディア市ヶ谷 6F (千代田区九段北4-2-25)

【主 催】特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)

【定 員】トラック1(阿蘇(東)/定員:80名)      トラック2(阿蘇(西)/定員:80名)

【概 要】2010年度に活動したワーキンググループ(WG)の活動報告と今後の活動計画などの発表

【料 金】参加費無料

午前中は2トラック並行で実施され、午後は1部屋に統合して開催されました。ここでは発表された部会ごとに概要をご紹介します。なお、プログラム詳細と発表資料は次のURLからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。

<http://www.jnsa.org/seminar/2011/0608/>

### U40部会

ラボネットWGリーダーの一宮隆祐氏(日本電気株式会社)から発表されました。

U40部会は、若手技術者の参加する部会です。40歳で卒業することになっていますが、今までの活動では各方面の専門家を呼んでディスカッションを行う勉強会や、各種家電製品やIPv6の対応を実証実験する取り組みなどを行っています。また、ラボネットのシステム構成や評価テーマについて説明されました。

### 教育部会

コーディネーターは、やすだ なお教育部会長、パネラーにWGリーダーの長谷川長一氏(株式会社ラック)と平山敏弘氏(日本アイ・ビー・エム株式会社)を迎え、「社会基盤としてのセキュリティ教育」というテーマで、パネルセッションが行われました。

セキュリティ講師スキル研究WGでは、「セキュリ

ティ講師スキルガイド2011年度版(仮)」を執筆中だそうです。これと関連して情報セキュリティ基本教育実証WGでは、遠隔地からの大学講義の実証実験を行い、成果を論文にまとめて日本教育情報学会誌に投稿したところ、査読論文として「教育情報研究」第27巻第1号に掲載される予定になりました。今後も、まだ定説になっていない教育方法や、方法論の実証実験を行っていくそうです。

### 標準化部会

標準化部会からは、2つのWGから報告が行われました。

#### (1) 情報セキュリティ対策マップ検討WG

「セキュリティ対策のモデル化と可視化(マップ化)への取り組み」というテーマで、リーダーの奥原雅之氏(富士通株式会社)から今までの検討内容や報告書内容のイメージなどが説明されました。今年度を最終年度として成果をまとめるそうで、「夢のあるマップ」を目指したいとのことでした。

## (2) セキュリティにおけるアイデンティティ管理WG

「2010年度セキュリティにおけるアイデンティティ管理WG成果報告」というテーマで、リーダーの宮川晃一氏（日本ビジネスシステムズ株式会社）から発表されました。WGでは成果物として『クラウド環境におけるアイデンティティ管理ガイドライン』を出版しています。（[http://www.jnsa.org/result/2010/idm\\_guideline.html](http://www.jnsa.org/result/2010/idm_guideline.html)）この内容について説明されました。また、もうひとつのテーマとしてまとめている、ID管理におけるロールマネジメントについての検討概要についても紹介されました。

## 日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)

ISOG-Jは、JNSAの傘下であり、4つのWGで活動しています。今回は出口幹雄氏（富士通株式会社）がリーダーを務めるWG3のセキュリティオペレーション関連法調査の成果報告として、関連法規を集約した「情報セキュリティ小六法」が紹介されました。（<http://www.jnsa.org/isog-j/activities/result.html>）また、WG2のセキュリティオペレーション技術WGが検討しているIPv6検証報告書についても紹介されました。（[http://www.jnsa.org/isog-j/output/2011/ISOG-J\\_IPv6\\_Verification\\_Report.pdf](http://www.jnsa.org/isog-j/output/2011/ISOG-J_IPv6_Verification_Report.pdf)）

## 調査研究部会

午後からは、調査研究部会の3つのWGのセッションがありました。

### (1) スマートフォン活用セキュリティガイドライン策定WG

「ガイドラインβ版リリースまでの活動内容と今後」として、リーダーの加藤智巳氏（株式会社ラック）から概要や課題について発表がありました。スマートフォンの利便性を損なわないようなガイドラインを作りたいとのこと。新聞、雑誌やWebメディアなどにも紹介され、公開情報として効果を挙げているようです。

### (2) セキュリティ市場調査WG

「2010年度セキュリティ市場調査結果について」としてリーダーの勝見勉氏（株式会社情報経済研究所）から国内の情報セキュリティ市場調査の概要報告が説明されました。2010年度調査結果の速報版をベースに独自に分類した区分による市場規模変遷の調査結果の概要が紹介されました。



ラック加藤氏による調査研究部会WG活動報告

## イベント開催の報告

### (3) セキュリティ被害調査WG 活動報告

「発生確率調査と2010年個人情報漏えい調査の報告」として、リーダーの大谷尚通氏(株式会社NTTデータ)から活動内容と報告書について説明がありました。今までの個人情報漏えいについての調査は、マスコミ等に公開されている事例を対象としているため、マスコミの価値判断が入りやすいという問題点がありました。このため、インシデントの発生確率を調査することができないか、という新たな課題について試行を始めているそうです。

### 【講演】東日本大震災をITで支援する Hack for Japanほかのご報告

最後に、Hack for Japanスタッフでもある日本マイクロソフト エバンジェリストの西脇資哲氏の講演がありました。東日本大震災の後、実際に現地入りして、IT技術者の目で見えた災害の状況が紹介されました。百聞は一見に如かずの通り、現地を経験した迫力のあるお話に圧倒されました。大震災はIT的にも単なるBCPやDRでは解決しきれない問題を突きつけました。ITに関わる者として、どのように復興に関われるのか、という重い命題に頭がフル回転する思いでした。



マイクロソフト西脇氏による講演

JNSAでは、今後もワーキンググループの活動を中心に様々な情報を発信して参りますのでご期待下さい。